

令和元年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立会津第二高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』…(資料1)

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

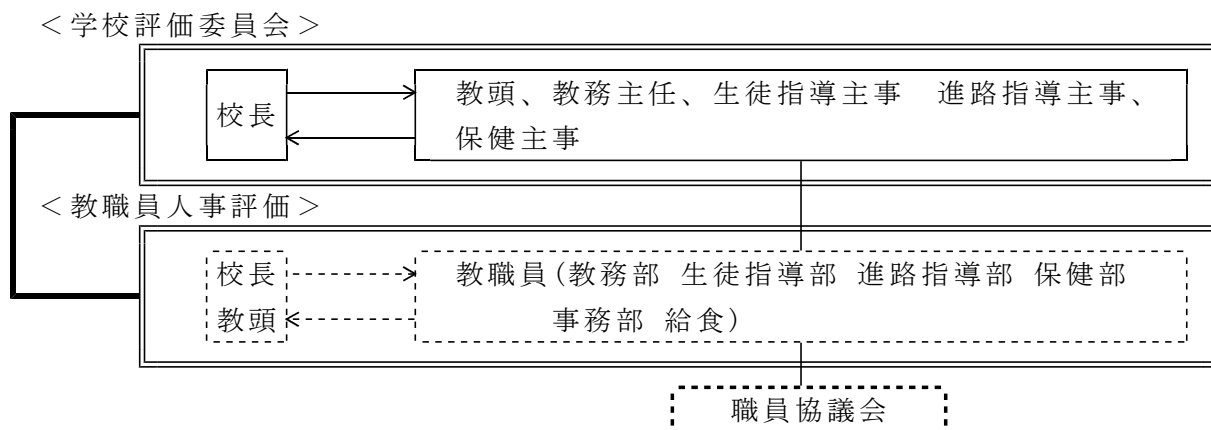
中学校時の不登校で社会への適応力の低いなどの多様な生徒が入学し、夜間定時制高校が抱える課題は多い。いかに自立した人間、地域社会に愛され、応えられる人間を育成していくかを使命課題として、教育目標、4つの努力事項を設定した。

(3) 組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

平成30年度末の自己評価の結果を受けて学校評価委員会が課題等の分析をし、その結果を職員会議において周知した。これらを経て校長が学校経営・運営ビジョンを作成した。今年度は重点努力目標の達成のために「個別相談」の充実を心掛けることとした。その後、主任を中心として各校務分掌組織ごとに努力目標を設定した。

2 校内組織体制について

(1) 組織図



(2) 組織作成のねらい、意図

全職員が意欲的に評価活動に参加できるように組織化した。評価活動を活性化するために、次の2点に重点を置いた。

- ① 各部・係から要請があれば職員協議会を開催し、連携をとりながら学校全体で評価活動に取り組んだ。
- ② 教職員人事評価と連動させ、個々の評価活動と学校全体の評価活動を一元化した。

3 自己評価年間計画について

(1) 年間計画表…(資料2)

(2) 作成のねらい、意図

学校評議員会と連動させながら、自校にとって特徴的な学校行事等の時期も勘案した上で、評価の時期などを設定した。学校評議員会では、生徒の生活の様子を理解してもらうため、授業参観・給食試食会も企画した。

(3) 自己評価年間実施状況

概ね年間計画通り実施できた。その都度課題を教職員で共有し、必要に応じてできるところは改善しながら実施したが、できなかった部分をどのようにして取り組んでいくかが今後の課題である。

Ⅱ 評価結果の概要

1 実施方法等

	年度末評価評価実施部署
自ら学ぶ意欲の育成	教務部、学校評価委員会
社会性の育成	生徒指導部、学校評価委員会
職業観の育成	進路指導部、学校評価委員会
地域社会との連携	保健部、学校評価委員会

○評価

学校経営・運営ビジョンの取組状況と各部・各学年の努力目標の達成状況をおよび年度末評価アンケートで総合的に評価した。

○実施方法

学校経営・運営ビジョンの取組状況と各部・各学年の努力目標の達成状況を全教員が評価した。また、各項目共通の年度末評価アンケートを教員、保護者、生徒に実施し評価した。これらを学校評価委員会で総合的にまとめた。

○コメント

担当以外の校務分掌の努力目標を評価するようにしたため、全教員が校務を把握し高い意識をもって1年を過ごすことができた。

2 アンケート及び回答数

(資料3:学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価・分析・反省)

(資料4:年度末評価アンケート)

(資料5:年度末評価アンケート集計)

努力目標に関する状況を、教員・保護者・生徒のそれぞれの立場・観点から4件法で質問し分析をした。特に、3者の意識のずれに注目し改善の参考にした。

4:そう思う	3:まあまあそう思う	2:あまりそう思わない	1:全くそう思わない
--------	------------	-------------	------------

学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価の回答率…全員:100%

年度末評価アンケート回答率…生徒:71.0(100)% 保護者:76.7(100)% 教員:100(100)%

()は昨年度の回答率

3 評価基準について

評価平均を出し、下表のように設定した。

評価平均	3.8以上	3.0以上3.8未満	2.0以上3.0未満	2.0未満
評価基準	達成できた	概ね達成できた	あまり達成できなかった	達成できなかった

4 年度末評価のまとめ

(1)年度末評価実施の目的、意図

年度末評価を実施し、本校の課題、改善策を探るとともに、評価内容を参考資料のひとつとした。年度内に次年度について、校長は学校経営・運営ビジョン、各部・各学年は努力目標、および教職員は人事評価自己目標の検討に速やかに入ることを目的とした。

(2)年度末評価結果の分析および結果概況

『自ら学ぶ意欲の育成』について

「基礎基本の定着」に関して、アクティブラーニングの重要性が高まっている中、本校においても各教員がさまざまな工夫をし、生徒の基礎基本の定着に努めているが、生徒の能力差や学習意欲、コミュニケーション能力など課題も多く、その成果は十分とはいえないことから、今後、学校全体で課題を共有しながら解決のための糸口を探っていくことが課題である。

「受験指導の充実」に関しては、生徒の意識がなかなか高まらない中、担任を中心に進路指導部や各教科が一体となり、生徒の進路実現に向けて努力し、高い進路決定率を残すことができた。

「充実した学校生活」に関しては、本校では担任や各部長、スクールカウンセラーがそれぞれに相談の機会を設けており、教員側としては窓口を広く開いているつもりであるが、アンケートの結果を見ると、教員側が広げた手よりこぼれている生徒がいる可能性があり、より細やかに生徒の思いを吸い上げる手立てを考えていきたい。

『社会性の育成』について

「基本的生活習慣の育成」については、個別面談を通して生徒の実態を把握したうえで、登下校・給食指導において普段からの声かけをして挨拶、礼儀、行動、言動など基本的生活習慣の確立を促す指導ができた。

「安全教育の推進」については、各種安全教育関連行事を計画通りに実施することができた。交通安全教室や薬物乱用教室では、生徒自ら考える学習ができ、安全に対する意識が高まった。指導部便りは安全意識を含めた規範意識を向上に大変有効であった。

「心と身体の健康」については、健康についての各種便りを配付し、また、心の健康教室などの行事を計画通り実施した。各種健康診断などの再検査に行く生徒が少ない傾向は依然としてみられることから、健康意識向上を促す指導を継続していく必要がある。

『職業観の育成』について

「進路意識の向上」については、各学年の目的にあわせて進路講話などの行事を行った。特に4年生については、7月に行った就職準備会が進路意識の高揚に大きくつ

ながつたと考えられる。

「進路情報の活用」については、不定期ではあるが進路便りを配付し、関係機関と連携をとりながら的確な情報を生徒に提供することができた。

「進路相談の充実」については、年度当初より準備をし、その生徒に合った面談を実施できた。学卒ジョブサポーター、進路アドバイザーと連絡を密にとり、的確なアドバイスをすることができた。

『地域社会との連携』について

「学校・家庭・地域との情報共有、連携の強化」については、校内の情報はホームページに掲載し発信した。また、学校へ行こう週間に合わせた学校開放のほか、希望者には日程調整の上授業を見学してもらった。個人情報取り扱いに配慮しながら、今後も校内情報を発信していくことは必要である。

「事業主との連携強化と、働く生徒の支援」については、生徒の就業を後押しし、就業率は6割前後で推移している。今後も声かけを継続することが大切であると思われる。

(3) 重点努力事項に対する達成状況

『個に応じた指導を通じた生徒の自己実現を図る』

自己実現とは、自己の素質や能力などを発展させ、より完全な自己を実現してゆくことである。今年度は達成のために「個別相談」を充実させて、生徒の素質や能力を発展させようと共通理解のもと取り組んできた。そのため、各校務分掌では、カウンセリングを含め、生徒との面談活動を努力目標の中に入れ、生徒との関わりをなるべく多くとるようにしていた。1つの評価として、4年生については全員が進路を決定し、1～3年生については、充実した学校生活を送りつつ進級できたため、重点努力目標は概ね達成できたと考えられる。

(4) 分析に基づく改善の方向

本校の役割は、小中学校時代に不登校であった社会性に乏しい生徒を社会に通用する人間として送り出すことである。今年度は「個別相談」というキーワードを設定したことにより、全教職員が創意工夫しながら生徒に寄り添った面談等を行い、生徒は少しずつではあるが社会に通用する人間に近づいてきていると思われる。来年度以降も「個別相談」を充実させていきたい。また、今年度のようなキーワード設定は教職員が一丸となって取り組める有効な手段であるため、来年度も学校経営・運営ビジョンの重点努力事項の中で、キーワードを設定し、教職員が組織的に活動できるようにしたい。

Ⅲ 広報の概要

1 目的や意図および実施状況

今年度の各種目標や取り組みについて周知するために、学校経営・運営ビジョンや学校便り等の学校情報を保護者に配付すると同時にホームページに掲載した。また、学校案内

などで生徒数や進路状況等の基本情報についてもホームページに掲載した。

2 配布対象、配布時期、配布方法等

	配布対象	配布時期	配布方法	ホームページへの掲載
学校便り	生徒・保護者	12月、3月	手渡し	○
学校案内	不特定多数	6月以降随時	手渡し	○
学校新聞	生徒・保護者	3月	手渡し	×
PTA新聞	生徒・保護者	3月	手渡し	×
生徒指導便り	生徒・保護者	毎月	手渡し	×
進路便り	生徒・保護者	不定期	手渡し	×
図書館便り	生徒・保護者	ほぼ毎月	手渡し	×
保健便り	生徒・保護者	ほぼ毎月	手渡し	×
年度末アンケート結果	生徒・保護者	3月	手渡し	○
学校評価	不特定多数	3月		○

3 実施してみての反省点等

学校情報は、生徒を通じて保護者に届くようにしているが、往々にして保護者まで届かないこともよくある。これは毎年の課題であるが、生徒が保護者に渡す意識をもたせるため、内容を伝えながら配付するなどの工夫をしつつ、生徒から保護者にきちんと届ける指導が必要である。学校便りや学校案内以外のものでできるだけホームページに掲載する予定であったが、今年度は実現に至らなかった。次年度は掲載にあたって不特定多数へ公開しても差し支えないかを慎重に見極めながらも、ホームページに多くの情報を掲載し、地域住民の方々に会津第二高等学校をもっと知ってもらえるよう情報提供に努めたい。

IV 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

昨年度と同様、年度末評価アンケートの結果を見ると全体的に評価が高く、特に教員の評価が高い。学習指導・生徒指導・進路指導と一生懸命に取り組んでいる教員の自信の表れであると思われるが、悪く言えば教職員の自己満足とも言える。生徒・保護者の評価ができれば教員の評価に近づいてくるのが理想で、今まで以上に生徒に目配り・気配りをして教科・生徒指導を行う努力をしなければならない。そして、本校の様々な目標を達成させ、魅力ある学校づくりをしていきたい。

2 自己評価全体の次年度の取り組みについて

今年度と同様に、『学校経営・運営ビジョン』→『各部・各学年努力目標』→『人事評価目標』をの順で目標を設定し一貫性をもたせる。担当校務分掌以外の校務内容についても意識をもたせるため、そしてチェック機能を兼ねるために年度末評価においては担当以外の評価も行うようにする。

3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望について

学校経営・運営ビジョンの目標達成のために、職員協議会や職員会議で情報交換をまめに行っていたこと、年度末評価を担当以外の校務分掌の努力目標についても評価したことで、校務に対する教員の意識を高めることができた。したがって、これらのことは今後も継続していきたい。また、管理職以外の学校評価委員にも、もう少し意識をもってもらうことが必要であり、そのために活動をもっと機能させ、さらに適切かつ有効的に評価をしていけるようにしなければならない。

4 終わりに

会津地区唯一の夜間定時制の現在の役割を十分認識し、校長のリーダーシップのもと生徒の自己実現や社会性の習得を目指し、教員が一丸となって校務に取り組んでいけるようにしたい。そして、年度末には良い評価が得られるように、または自ら良い評価ができるように努力してしていきたい。

<別紙資料>

資料1 『学校経営・運営ビジョン』

資料2 学校評価年間計画

資料3 学校経営・運営ビジョン、各部・学年努力目標の評価・分析・反省

資料4 年度末評価アンケート

資料5 年度末評価アンケート集計